

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	12-120	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Smoking, low formal level of education, alcohol consumption, and the risk of rheumatoid arthritis. 喫煙、低学歴、飲酒量とリウマチ性関節炎について		
<b>執筆者</b>		
Bergström U, Jacobsson LT, Nilsson JÅ, Wirfält E, Turesson C.		
<b>掲載誌</b>		
Scand J Rheumatol. 2013;42(2):123-30.		
<b>キーワード</b>		
低学歴、リウマチ性関節炎 (RA)、喫煙、飲酒量		
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> リウマチ性関節炎(RA)は喫煙のような環境的暴露が予測因子になると考えられている。本研究の目的は、前向きコホートをを用いたコホート内症例対照研究で、RA の潜在的な予測因子を検討することである。		
<b>方法：</b> 1991年と1996年にMalmö Diet and Cancer Study (MDCS)に含まれる30,447人が対象とされた。2004年12月31日を含んでRAを発症した個人は、異なる登録データベースとリンクすることによって同定された。4つのコントロールは、すべてのケースから選択した。ライフスタイル要因に関するデータは、MDCSのデータを用いた。		
<b>結果：</b> 我々は172のRAのケースを確認した[36人の男性と136人の女性は、診断時の平均年齢は63歳、69%リウマチ因子(RF)陽性、発症から診断までの期間の中央値は5年(範囲1-13)であった]。二変量解析では、ベースラインは喫煙[オッズ比(OR)2.02、95%CI:1.31-3.12]と、低学歴(すなわち≤8年と大学学位までの比較、OR2.42、CI:1.18-4.93)がRAのその後の発症を予測した。ほとんど飲酒をしないことはRAの予測因子であった。過去数ヶ月間飲酒ありと比較すると、ベースライン時にほとんど飲酒しないことはRAの予測因子(OR3.47、95%CL:1.91-6.30)であり、ベースライン時に中等度の飲酒量(<3.5グラム/日対3.5~15.2グラム/日)が喫煙と教育のレベルを調整後もRAリスクの減少させる傾向があることがわかった(OR0.48、95%CL:0.22-1.05)。		
<b>まとめ：</b> 喫煙と低学歴であることは、RAの発症とは独立した要因であることが分かった。中等度の飲酒量はまた、リスクを下げる事も分かった。		